



Title	歌
Author(s)	仲田, 應弘
Citation	懷徳. 1930, 8, p. 86-86
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88820
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

伏尾久安寺にて

時鳥ここをどく去れひま人に會はぬ貼り紙この寺にあり

月 冷 た く

仲 田 應 弘

堂友會宇治行 二首

自動車の揺れはげしけれ先生の大きみからだひた押して來る (吉田先生)
雨雲のゆき交ふ山を見あげつゝ歩みおくれてわがひとりなる

○ 地虫のこゑききすましをる夜の更けの疊、月の冷たくもさす

藤棚の茂みをとほす眞ひる日のはだらに清し椽に坐るも (羽衣、村田氏邸)

泉北郡久世村、荒山神社三首

谷底の若竹むらの揺れゐるを眺めつゝ涼し夕山風は

時鳥きこえずなりし向山の松の眞青く夕日かげさす

夕日光あけあかあかさせり松山のこのもかのもに鳴き立つ山蟬

○

軒先のかたばみ草やこの幾日つづくひでりに白くなりける
窓のへにはひからみたる草の葉の眞晝を光る露こりてをり
朝よりのくもり重重しこの儘に思ひを耐へて行かれずわれは